

# さがける 科学人

vol.123

松田 侑奈 Matsuda Yuna

JSTアジア・太平洋総合研究センター  
(APRC)フェロー

## Profile

中国出身。2020年慶應義塾大学法学研究科博士課程修了。博士(法学)。慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュートプロジェクトメンバーを経て、21年より現職。



8年ほどヨガを続けています。仕事・育児の息抜きにもなる、自分にとって大事な時間です。

## Q1. アジアに興味を持ったきっかけは？

A1. 欧米より少ない比較研究に疑問  
法学分野から科学技術の道へ

私は中国で生まれ育ち、高校までバイリンガル学校でハングルを勉強してきたこともあり、自然とアジアに興味を持っていました。北京師範大学の法学部で法律を勉強していると、欧米に比べてアジアとの比較研究が非常に少ないことに気づきました。その時に「研究する価値はないのか？」と疑問に感じたのが、アジア研究に着目したきっかけです。

いざ研究を始めたらアジアの魅力やポテンシャルに惹きつけられ、大学院で研究を深めることを決心。博士号取得後は、JSTのアジア・太平洋総合研究センター(APRC)に就職しました。科学技術はこれまで学んできた法学と分野が大きく異なるので不安も

ありましたが、好きなアジア地域を引き続き研究ができることがうれしかったです。また、法律もAPRCの仕

事も国の方針に基づくという点で共通していましたが、何より自分が得意とする「調べる」研究を生かせると思いました。

## Q2. APRCでの研究について

A2. 中韓の調査・分析を担当  
政治や経済の理解も不可欠

APRCは、アジア・太平洋地域と日本の科学技術の相互理解や協力、国際交流基盤の構築を目的として、さまざまな分野の調査研究・情報発信を行っています。その中で私は、主に中国・韓国の科学技術イノベーション政策や、研究開発動向などの調査・分析・情報発信に従事しています。

一口に科学技術の動向と言っても、背景には複雑な社会事情があり、その国や地域の歴史、文化、政治・経済状況を理解しなければなりません。先入観にとらわれないようにするため、各国の官公庁などの信頼できる情報源を確認し、その国の状況を正しく伝えることを心掛けています。

調査を重ねていくと「その国らしさ」が見えてきて、非常に面白いです。例えば、中国は政策の変化が非常に早く、ある分



アジア地域の情報を正確に発信できるよう、各国の官公庁・研究機関などのリリースや報告書の検索・分析をこまめに行っています。

野を強化していても、一年後には異なる分野に注力していたりします。どこを目指しているかの分析は、難しくもやりがいがあります。

報告書の中で何を中心に据えるべきか悩み、原稿を何度も書き直すことも少なくありません。しかし、私の発信した調査報告書が官公庁や企業のレポートに引用され、人の仕事の役に立ったり、APRCの存在を広く知っていただく機会にもなったりしたと聞くと、とてもうれしいですね。

## Q3. 研究者を目指している人に一言

A3. メジャーでなくても大丈夫  
開花の時期は必ず訪れる

研究地域としてのアジアは欧米よりマイナーです。しかし研究の間口が広く、人材育成における発展も著しい大きなポテンシャルを持つ地域だと感じています。APRCでの調査研究を通じて、多くの人にその魅力を伝えていき、日本とアジアの相互理解や協力の促進に少しでも貢献できればと考えています。アジアの研究と言えばAPRCと言ってもらえるよう、今後も正確で有用な情報の発信に努めます。

研究者を目指す人は、自分の興味があることがメジャーでなくても大丈夫です。「マイナーな研究はニーズがあまり高くない」と私は周囲から言われ続けてきました。ですが、粘り強く黙々と研究していけばそれが新しい道になり、開花の時期はいつか必ず訪れます。ぜひ自分に自信を持って、研究に取り組んでいってください。

(TEXT:横井まなみ)

アジアの科学技術動向を正確に発信  
魅力とポテンシャルを伝える!!



JSTnews

January 2023

発行日/令和5年1月4日

編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ

電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432

E-mail/jstnews@jst.go.jp JSTnews/https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー